

(6) フレイルに関する研究

川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科 石本恭子

高齢者の介護予防の観点から、転倒スコアやフレイルスコアが用いられている。両者スコアの特性を検討するため、1年後における日常生活動作(Activities of daily living: ADL)低下の予測性を比較した。転倒スコアは、ADL低下を予測しなかったが、フレイルスコアは他の交絡因子で調整しても有意にADL低下を予測した(調整オッズ3.2、95%信頼区間1.07-9.53)。フレイルなし群、プレフレイル群、フレイル群に分け検討したところ、フレイルスコアが高い群ほど、ADL、生活の質(Quality of life: QOL)、認知機能は低く、転倒スコア、うつスコアは高く、骨関節疾、脳血管疾患、うつ病の既往割合が増加した。特に、フレイルスコアが高い高齢者は、認知機能、心理的要因、QOLの低下が予測され、健康状態を包括的に評価する必要がある。